(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3142740号
(U3142740)
(45)発行日　平成20年6月26日(2008.6.26)　(24)登録日　平成20年6月4日(2008.6.4)

(51)Int.Cl.　F I
C25B 9/00 (2006.01)　C25B 9/00 A

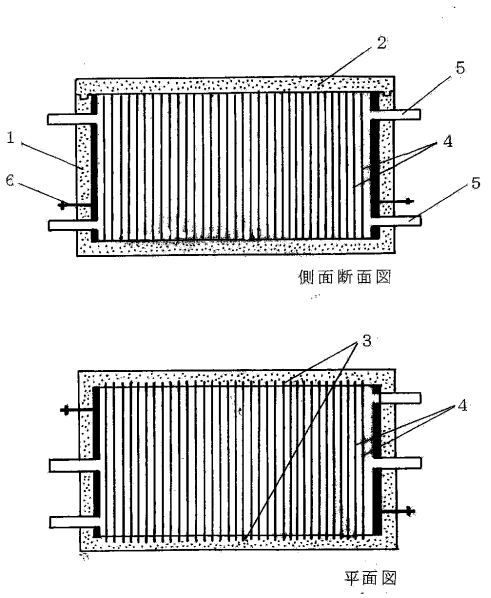
評価書の請求 未請求　請求項の数 1　書面　(全 3 頁)

(21)出願番号　実願2008-2470(U2008-2470)
(22)出願日　平成20年3月24日(2008.3.24)

(73)実用新案権者　591118395
加納　博
東京都豊島区巣鴨５－３５－１２
(72)考案者　加納　博
東京都豊島区巣鴨５－３５－１２西南荘

(54)【考案の名称】硬質塩化ビニール製電気分解槽で、電解槽自体が絶縁物質であり、電解槽の左右両壁面に等間隔で溝が付けてあり、電極板を配列出来る構造の特徴を有する電気分解槽。

(57)【要約】　(修正有)
【課題】水を電気分解させるための電気分解槽で電極板を自由に配置出来る装置を提供する。
【解決手段】電解槽内に納める電極板は１枚ずつ、それぞれ絶縁されていなければならない。現在は電極板の縁をプラスチック材か、ゴム等で縁どりされている。これを金属の槽の中に入れるため、その製作は大変である。該電解槽本体を硬質塩化ビニール製にして、その左右両壁面に等間隔で溝を切り、その溝に電極板をはさみ込むことで、自由に電極板の間隔調整と配列ができる。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
硬質塩化ビニール製電気分解槽で、電解槽自体が絶縁物質であり、電解槽の左右両壁面に等間隔で溝が付けてあり、電極板を配列出来る構造の特徴を有する電気分解槽。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
水を電気分解するための分解効率の良い電気分解槽
【背景技術】
【０００２】
水を電気分解するための電気分解槽は槽の中に配列する電極板を１枚づつ絶縁する必要がある。また、電解槽の中に電解液を入れるので、電解槽の構造によっては、液漏れが発生することがある。
【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】
【０００３】
水を電気分解して水素酸素混合ガスに変える電解槽は電極板の使用数、大きさ、素材と電極板の配置間隔が重要な役割を秘めている。電極板を簡単に配列する構造にする。
【考案を解決しようとする手段】
【０００４】
電解槽内に納める電極板は１枚づつ、それぞれ絶縁されていなければならない。　現在は電極板の縁をプラスチック材か、ゴム等で縁どりされている、これを金属の槽の中に入れるため、その製作は大変である。本考案は電解槽本体を硬質塩化ビニール製にして、その左右両壁面に等間隔で溝を切り、その溝に電極板をはさみ込むことで、自由に電極板の間隔調整と配列ができる。
【考案の効果】
【０００５】
電解槽本体が絶縁体であり、左右の溝の間隔も自由にできるため、分解能力の向上ができ、電解液漏れもない。
【考案を実施するための最良の形態】
【０００６】
▲１▼　硬質塩化ビニール製のボックス形電解槽にする。
▲２▼　電解槽内部の左右両壁面に電極板を均等間隔に並べるための溝を切る。
▲３▼　電極板を数１０枚並べられるようにする。
▲４▼　電極板を収納したあと、フタを取り付け密封する。
【実施例】
【０００７】
以下は添付図により実施例を説明する。　図１の側面断面図の１は硬質塩化ビニール製の電解槽である。　図１の平面図の３は電解槽左右壁面の溝で４の電極板が配列されている。電極板配列後、２のフタで密封する。５は水素酸素ガス通路口。６は電気接続部である。
【産業上の利用可能性】
【０００８】
水を電気分解して出来た水素酸素混合ガスはＣＯ２排出なしのクリーンエネルギーである。住宅暖房、農業用ビニールハウス暖房、発電機等に利用できる。
【図面の簡単な説明】
【０００９】
【図１】電極板を自由に配列できる電解槽の側面断面図と平面図である。
【符号の説明】
【００１０】

１．　硬質塩化ビニール製電解槽
２．　電解槽フタ
３．　電極板並列させる溝
４．　電極板
５．　水素酸素ガス通路口
６．　電気接続部

【図１】

